

## 第 125 回 肥前セミナー

### 「生き辛さの対処として考える薬物依存症

～市販薬を不適切使用する若者について理解してほしいこと～

講師：宇佐美 貴士 先生

福岡県立精神医療センター太宰府病院 精神科医師

日時：令和 7 年 11 月 21 日（金）18：00～19：00

場所：肥前精神医療センター内「医師養成研修センター」

薬物依存臨床というと、覚せい剤や大麻等の違法薬物を用いた結果、精神病症状を引き起こして精神科に受診する、というイメージを持つ方も多いかもかもしれません。しかし、実態は違ってきます。近年、市販薬や処方薬の不適切な使用の結果、精神科病院を受診する患者さんが増加している、という調査結果があります。特に市販薬は 10 代や 20 代といった若い世代に広がっており、背景には複雑な問題を抱えていることが分かっています。彼らは SOS を出すことが苦手でもあり、希死念慮と長く付き合いながら生活をしています。自殺者数をみても、10 代の自殺者数は増加傾向にあります。彼らに何がおきており、どのように支援することができるのでしょうか？

今回の肥前セミナーでは、依存症臨床・研究の第一線で活躍されている太宰府病院の宇佐美貴士先生に「生き辛さの対処として考える薬物依存症」と題してご講演いただけることになりました。臨床現場等では依存症患者を援助するにあたっての苦悩や困惑が数多くあると思います。本講演では、薬物の使用について「問題行動」としてではなく「生き辛さ」という視点で解説していただきます。依存症治療の場面に留まらず、多くの場面で活用できる支援の糸口を示して頂けるものと思います。皆様ふるってご参加ください。

※参加無料、先着 80 名。申込〆切 10/31（金）。下記 QR コードからお申し込み下さい。



〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津 160  
独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター  
肥前セミナー係 松崎 公信（担当 加藤）  
TEL 0952-52-3231 / FAX 0952-52-3400

宇佐美 貴士（うさみ たかし）先生 プロフィール

2011 年佐賀大学医学部卒業。2013 年九州大学精神医学講座に入局。2015 年より福岡市精神保健福祉センター、2018 年国立精神・神経医療研究センター病院にて薬物依存症の臨床・研究に従事。北九州市精神保健福祉センター、肥前精神医療センター勤務を経て 2025 年より福岡県立精神医療センター太宰府病院に勤務。治療だけでなく一次予防に強い関心を持ち、学校や行政など多方面で講演をしている。アディクション関連で多数論文や執筆あり。直近では 2025 年 7 月発行の「治療」107 巻 8 号に「精神科臨床に現場における市販薬使用症の実態」として論文掲載。

